

令和 8 年度大野市子ども・子育て会議 （第 1 回会議録）

- 日時 令和 8 年 7 月 1 6 日（木）午後 7 時～8 時 4 0 分
- 会場 有終会館 結とぴあ 3 0 8 ・ 3 0 9 号室
- 出席者 兼井委員（大野市民生委員児童委員協議会）、森藤委員（大野市 PTA 連合会）、鷺野委員（大野市立保育園保護者連合会）、長岡委員（地域子育て支援センター利用者）、玉木委員（放課後児童クラブ保護者）、森口委員（子育て交流広場ちくたつく利用者）、清水委員（大地の会）、松下委員（大野市小中学校校長会）、近藤委員（大野市民間保育園）、駒委員（公立保育園）、高村委員（大野市児童センター）、毎川委員（大野商工会議所青年部）、杉井委員（奥越健康福祉センター）

青井アドバイザー

事務局 岡課長、帰山課長補佐、平瀬課長補佐、松山企画主査

- 欠席者 久保委員（公募）

●内容

1 会長あいさつ

- ・みなさんとお互いに交流しながら進めていきたい。1 年間よろしくお願いします。

2 委嘱状交付（推薦団体の役員等の変更に伴う新任委員）

委嘱状を机上配布

任期は本日から令和 9 年 6 月 3 0 日まで（新任委員）

3 議題

進行 兼井会長

（1）子ども・子育て会議の年間予定について 【資料 1】

（2）令和 7 年度子ども・子育て関連事業の実績について【資料 2】
令和 7 年度「大野ですくすく子育て応援パッケージ」について

（3）令和 8 年度版「おおのすくすく子育て応援パッケージ」について

（4）意見交換

「テーマ：将来の見通しを立てられる相談支援の実現に向けて」【資料 3】

～子育て世代が相談しやすい環境について～

【主な意見】 グループディスカッション①・② ※添付のとおり

青井アドバイザーからの感想・アドバイス

- 相談という言葉には幅広い内容が含まれており、明確な悩みだけではないため、保護者にとっては「相談する」という行為自体のハードルが高い場合がある。
- 行政としては相談機関や窓口の周知が重要だが、フォーマルな支援だけでは十分ではない。
- 制度や相談窓口などのフォーマルな支援は充実してきている一方で、それらを有効活用するためには、地域の間人関係や仲間づくりなどのインフォーマルなネットワークが重要である。
- 子育て支援では、制度や相談窓口などのフォーマルな支援と、人と人との自然なつながりによるインフォーマルな支援の両方が重要である。
- 重要なのは「相談するためのコミュニティ」だけではない。例えば趣味活動など、別の目的で集まるコミュニティの中で自然に悩みや経験を共有できる。そうした何気ない交流の中で課題が解決されたり、支え合いが生まれたりする。行政には、そのようなつながりのきっかけを提供する役割も期待される。
- AI は便利なツールだが、すべての情報が正しいとは限らないため、利用者自身が内容を判断することが重要である。保護者は育児書と同じように参考として活用し、AI との適切な付き合い方を考えていく必要がある。

4 報告事項

- (1) 子育て支援と地域保育を考える懇談会情報共有 【資料 4】
- (2) なつやすみわくわくカレンダーについて
- (3) 学びと遊びと体験の広場について

5 副会長あいさつ

令和 7 年度のパッケージの各項目を振り返ると、ほぼすべての取り組みが計画どおりに進められており、とても意義のある、誇るべき事業であったと改めて感じております。

また、この後のグループワークでは、皆さまから活発なご意見をいただき、第 1 回目として今後につながる大変良いスタートを切ることができたのではないかと

と感じております。

本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。